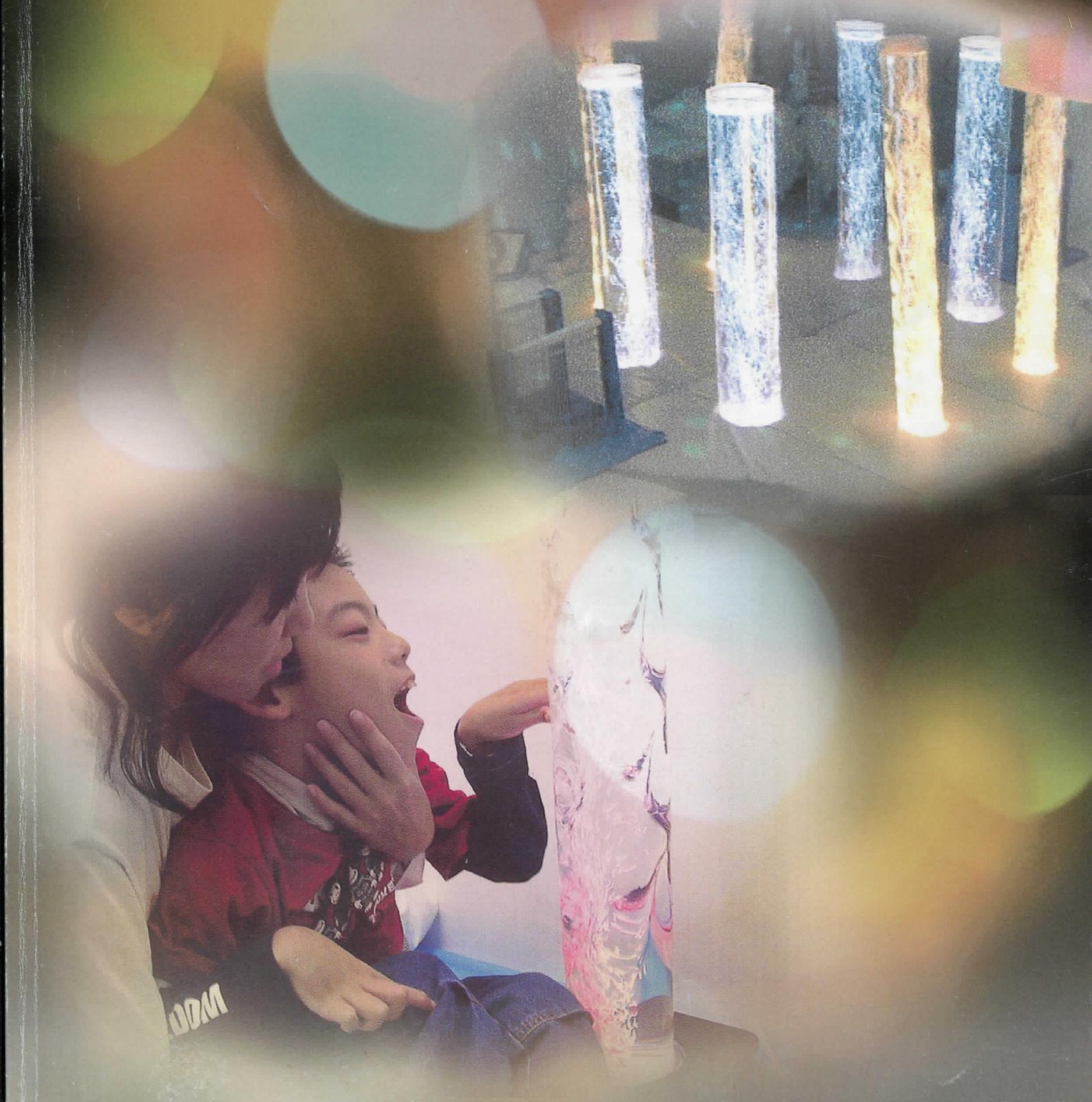


スヌーズレン

～癒しの環境と新しい発見～



目 次

はじめに

I 章 「背景」

*スヌーズレンを始めたいきさつ	I - 1
*環境設定	I - 4
*利用者を知る方法	I - 8
*物品購入	I - 10
*環境や器具等の注意点	I - 12
*歴史	I - 13

II 章 「スヌーズレンくらぶの取り組み」

*1年目の報告	II - 1
*2年目の報告	II - 2
*3年目の報告	II - 3
*保護者の感想	II - 4

III 章 「スヌーズレンセミナー報告」

*第1回目の報告	III - 1
*第2回目の報告	III - 2
*第3回目の報告	III - 4
*第4回目の報告	III - 6
*第5回目の報告	III - 9

総 評

資 料

はじめに

「スヌーズレン」という言葉を初めて聞いた時、すんなりと“スヌーズレン”と言えなかった記憶があります。しかも人に説明する時、自分の言葉で表現出来ず曖昧な言葉になり、正しく伝えきれていない感じでいつももどかしい気持ちになっていました。療法のようでありながら、効果を期待してはいけないし、指導や提供もしてはいけない・・そんなスヌーズレンを理解し、意味を正しく伝えることが出来るようになったのは、スヌーズレンという言葉を初めて耳にしてから6年目にあたる今年になってからです。一年間帰郷された河本先生に講座の依頼をし、受講の回を重ねる毎に魅力にとりつかれ、スヌーズレンのすごさを感じることが出来ました。そして、ようやく、自分の言葉でスヌーズレンを表現できるようになったと思います。その魅力を一人でも多くの人に伝えたくて、今回の報告書作成を取り組むことといたしました。

実は、スヌーズレンというのは、老若男女・障害の有無を問わず、誰でもが感じることが出来るものなのです。あなたは、ふと1~2時間、時間があいて癒しの時間にしようと考えた時、何をして過ごしますか??ある人は、ウィンドショッピングに出かけ、好みの服を買い求め、満足感にひたるでしょう。そしてある人は、縁側のソファに腰を降ろし、ポカポカとした心地よい陽の光を浴びながら、ウトウトして気持ちよくなるでしょう。そして、又ある人は、映画を見たり・・散歩をしたり・・音楽を聴いたり・・・華を観賞したり・・おいしい物を食べたり・・とにかく、人それぞれの過ごし方で癒しの時間を作り出すと思います。実は、それがスヌーズレンだと思うのです。自分が一番心地よい空間・時間を作つて過ごし、それを次の活量と変えていく事ができる・・それが、スヌーズレンの魅力だと感じています。ただ、すべての人が自分一人でその環境を作れるわけではなく、障害や高齢でハンディを伴う人達には、その空間を作る手助けが必要となるわけです。自分の癒しが確立されていない発達期の子ども達には、その癒しを見つけることから始まるのです。高齢の方には、忘れかけてしまった懐かしく心地よい物を思い出すことから始まるのかもしれません。

この報告書では、主に障害のある発達期の子ども達の事例を取り上げながら、当法人で取り組んできたスヌーズレンについて紹介していきたいと思っています。

障害のある子どもたちが、将来充実した生活を送るために今後もスヌーズレンをはじめ、さまざまなものを取り入れて取捨選択しながら、着実に成果を積み重ねていきたいと考えています。



事務局長 堅田雅子

I章 背景 (歴史)



スヌーズレンとの出会い

副理事長 加登田 恵子（山口県立大学）

「ミレニアムの記念」という言葉が流行っていた2000年。私は文部科学省から在外研究の機会を与えられ、南スウェーデンにあるルンド大学に行くことになりました。私がルンドに到着した翌日に、デンマーク（ヨーロッパ大陸）とスウェーデンを結ぶオーレンド大橋が開通。EUが共通通貨であるユーロを発行するなど、21世紀を目前に、ヨーロッパも大きく変わろうとしている時期でした。

スウェーデンは、その前に視察旅行で通ったことがありました。外国で一定期間暮らすという体験は初めてで、とてもワクワクしていました。それに、なんと言っても、スウェーデンは世界に冠たる「福祉大国」。調査研究もさることながら、世界で一番進んだ福祉制度を生み出したスウェーデンの人々の生活感覚や雰囲気を肌で感じたいという思いでいっぱいでした。

滞在期間には、幸運に恵まれ、大学関係者だけでなく様々な方との出会いがありました。その中に、ルンド市の隣町にあるマルメ大学付属ハビリテーリング・センターで作業療法士をしておられる「スウェーデン・北欧・マルメ」というサイトを公開しておられた河本佳子さんとの出会いもありました。実は、私が日本で南スウェーデンの地域情報を色々集めている時に、偶然『スウェーデンの作業療法士』という著書を出されたばかりの彼女の存在を知ったのです。それから向こうに行って、図々しくもお宅に押しかけ、私の調査に協力していただいたり、色々な相談にのっていただくことになったのですが、研究テーマが障害児関係でもなかったので、とくにその時は「スヌーズレン」の実践を視察にいくということはありませんでした。

実はスウェーデン滞在中に、河本さんの勤務されているマルメ・ハビリテーリング・センターにもおじやましたことがあります。しかし、それはスタッフである河本さんを尋ねて行ったのではなく、センターに通っている障害児の「親の付き添い」ということで、利用者の立場からプログラムを見学させていただいたのでした。

スイミングのプログラムでしたが、何よりびっくりしたのは、1人の指導者が担当していたのは2人の障害児で、小さなBGMをバックに、とても静かに水遊びしている様子でした。二人とも肩やお尻に小さな浮き輪をくっつけている子どもで、一人はかなり重度の麻痺がありました。今となっては、日本でも、養護学校ではマンツーマンや2対1、3対1くらいで手厚く指導しておられる様子を知っているので、それほど驚くことでもないでしょうが、私はついつい「わいわいクラブ」や他の障害児福祉施設で、それこそ障害児の間をワイワイ走り回っている指導者の姿というものに慣れていきましたから、その静けさにびっくりしたのでした。しかし、静かだと言って無為でボサーとしている訳ではなく、指導者は時折もう一方の子どもに声をかけて冗談を言ったり、今度は「こうしてみようか？」とアドバイスしているようでした。とにかく、二人の障害児がとてもリラックスして、のんびり、ゆったり訓練（ハビリテーリング）している様子が印象的でした。

その障害の親子の紹介で、別の地域にある「脳障害児用」の施設のオープンデイに誘われました。そこはかなり街中にあり、古い倉庫付きの家を改装して作られた施設でした。年に数回、施設のオープンデイを開いて、一般の見学者やこれから利用したい人たちに開放しているようでした。入り口のホールは天井が一般より多少高かったけど、普通の家ののようなインテリアがしつらえてあり、小さなテーブルには、お客さ

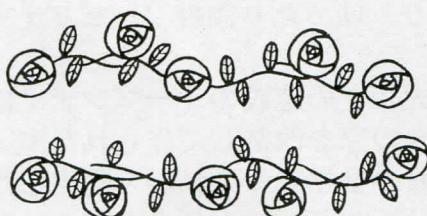
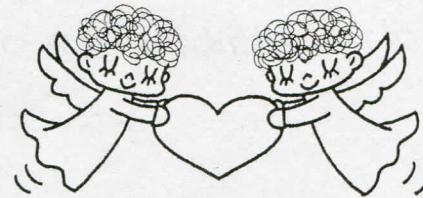
んのために利用者さんが作ったというクッキーと簡単な飲み物が置いてあり、「お客様は自由につまんでくださいね。」と言わされました。フロアは幾つかに分かれており、陶芸のコーナー、織物のコーナー、アートのコーナー、パソコンのコーナー、ミーティングのコーナー、台所などが用意されていました。その時に利用者はほとんどおられなかつたので、スタッフに案内してもらい、プログラムについて説明を受けました。

なかにちょっと変わった部屋がありました。それは真っ暗であるで暗室のようになっている＜ブラックルーム＞と言われる部屋と、天井からソファまで真っ白の＜ホワイトルーム＞と言われる部屋でした。そのブラックルームには、特別なライトやイルミネーションが用意されているわけでもなく、少々殺風景でもありました。そこで、静かで好きな音楽をかけて、懐中電灯や幾つかの光で遊ぶのだ、と説明を受けました。＜ホワイトルーム＞はその全く反対で、天井を見ても壁を見ても真っ白。家具も真っ白。そこもまだ殺風景に感じたくらいで、その時は説明を受けても、「自閉症スペクトラムの人たち向けの刺激を極力減らした環境設定」程度にしか理解できず、スヌーズレンについて特別な知識のなかつた私には「そういうものかなあ」という位の感想しかありませんでした。河本さんのご本にちょっと紹介されている「スヌーズレン」に結びつきさえしなかつたのです。そのスタッフは、部屋と部屋をつなぐ廊下の色調や、部屋の壁や天井の色、模様などをルンド大学の色彩心理学の先生の力を借りて、＜環境設定＞に色々工夫しているのだ、と力説しておられました。

帰国して、改めて河本さんの次に出された「スウェーデンのスヌーズレン」について紹介されたご本を読んで、いっぺんに色々なことが繋がってきました。

デンマークで重症心身障害児のデイサービス施設に行ったとき、麻痺がひどくて寝返りも出来ない子どもを、BGM付きのこじんまりした部屋ウォーター・ベッドに寝かせ、それに寄り添って、静かに話しかけながらマッサージしたりしていた療育、あれもスヌーズレンだったんだ！　スウェーデンのある幼稚園に行ったとき、階段下の三角の狭い空間に、月や星の模様のある黒いカーテンを掛け仕切り、中には柔らかいクッションを置いて、わざと日本の押し入れみたいなコーナーを作っていたっけ、あれもスヌーズレンだったんだ！　そう言えば、ある泣き虫さんはそこがお気に入りで、一人になりたいときには、いつもそこに閉じこもるのですよ、とスタッフが言つてたっけ・・・。スウェーデンの認知症患者の多いグループホームでは、わざとインテリアを1960年代風にして、古いレコードをかけていた・・・。それらの、色々なことが、ピタつとはまって、まるで糸が繋がったような気がしました。

「これは現場で使える」直感的にそう聞きました。スヌーズレンは、従来の「環境設定法」をもっともっと繊細にして、感覚刺激の次元まで碎いて応用するような方法ではないか、私はそう理解しました。



スヌーズレンは、いわゆる何か障害を治したり、訓練して動作が上手になるようなトレーニングではありません。オランダで、最重度の障害児に対して、通常のリハビリや訓練の技術でいくら一生懸命働きかけても一見何の成果もなく、彼らにとって何の意味もないように思え、何をしたら良いのかと悩み抜いたスタッフたちが考えだ

したアプローチなのです。

私はスヌーズレンの発想の魅力は、主に3つあると思います。一つは、障害児（高齢者・病者）を＜あるべき姿＞や健常者の基準に向かって、訓練しようとしないことです。むしろ、環境を設定することで、できるだけ、あるがままの姿を自然に引きだそうとします。もう一つは、障害者の訓練・治療をするのではなく、障害者と療育者などが、一緒にスヌーズレン体験をすることで＜関係性の癒し＞ができることです。これではきっと＜燃え尽き症候群＞になりませんね。最後は、決まりきったやり方があるのでなく、参加者が感覚を開放できる＜環境＞を創ることの大切さということです。

私は福祉や教育の現場で、健常者以上に、治療や訓練と言う名目で、指導者から一方的に色々詰め込まれる障害児を沢山見てきました。訓練の成果が、健常者に分かりやすい障害の種類や程度の場合は、それで十分手応えがあるのかもしれません。しかし、重度であればあるほど、それは健常者であるスタッフの独りよがりの側面が強くなりがちです。むしろ、一部には、訓練のための訓練、治療のための治療に疲れて果てている子どもたちも見られました。治療・訓練・教育というものは、達成目標に向かって一直線に伸びていくという指向性があるからです。ひたすら指導者は、その子どもにある方向を目指して働きかけようと努力します。

それに対して、スヌーズレンはもう少しいい加減です。「今、ここにある、2人の関係、それぞれの身体感覚を大切に共有しよう」という指向性があるように思います。従来の治療・訓練・教育が＜縦＞であるなら、スヌーズレンは＜横＞の関係です。お互いの身体の感覚を開放し、リラックスして周りの環境を楽しもうとします。そのことが、結果として、障害児のリハビリや症状の安定に繋がるのです。

私は、スウェーデンでスヌーズレンが受け入れやすい訳が、少し分かるような気がしました。北欧の人々は、基本的に森や湖の自然が大好きで、シンプルで、＜個人＞というものを大切にして、どちらかと言えば大騒ぎより静かさを愛する人々だからです。自然の中での癒しを大事に考える人が多いようです。そのような人々は、きっと、最も傷つきやすい人々や最も障害の重いと言われる人々に、ゆったり合わせるゆとりがあるのでしょう。また短期的な成果を追わず、何が大切なを見失わず、長い冬だけ着実に春が巡りくるのをじっくり豊かに待つ智恵があるのでしょう。

昨今の日本は、なんだか日に日に入間関係がギスギスしているように思います。せわしなく、何かに追い立てられているようにも感じます。こういうときに、せめて色々な局面で＜スヌーズレン＞空間を作り出すことができたらと期待しているところです。



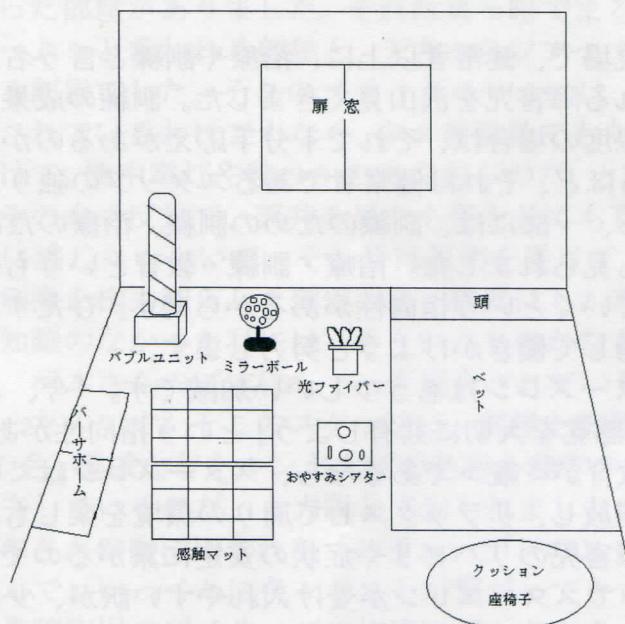
*環境設定

☆部屋づくり

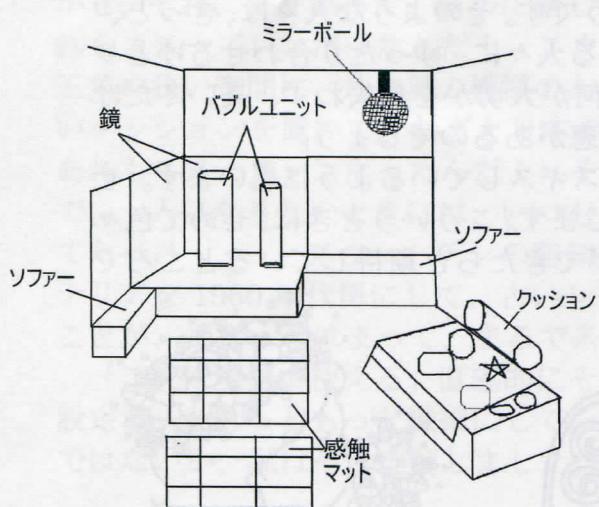
(ホワイトルーム)

スタッフで、6畳の部屋に白ペンキを塗り、天井には少し模様があつたため白い布を天井からつるしたり等の工夫を行い完成させた。

前



現在



★ホワイトルームとは・・壁や天井などすべてが白で統一されている部屋である。

*物づくり

河本先生作成図案を元に、山口大学教育学部の岡村よしひさ先生の指導の元、バブルユニットの土台やソファーアイデアを作りを。またスタッフで感触マット、臭覚ペットボトル立て、つり下げ道具、などを作った。

☆バブルユニットの土台作り

<目的>

バブルユニットの固定。バブルユニットを間近で触ったり見たりするために、上がれるようするため。

<材料>

板、スポンジ、合成布、ホッチキス、スポンジ用のカッター

<作る過程>

①土台となる板に合わせてスポンジを切る。



②次に布を合わせて切る



③次に板に布をホッチキスでとめていく



④布をきれいに切っておく



⑤完成



☆ソファーづくり

<目的>

利用者がゆったりと座れるように。バブルの土台と同じ高さにそろえる事で、利用者がスタッフと一緒に間近で触ったり見たりする事が出来る。

<材料>

板、スポンジ、合成布、ホッチキス、スポンジ用のカッター

<作る過程>

作る方法は土台づくりと同じである。

<完成図>



☆感触マット

<目的>

色々な感触（柔らかい、ざらざら、つるつるなど）を感じる。

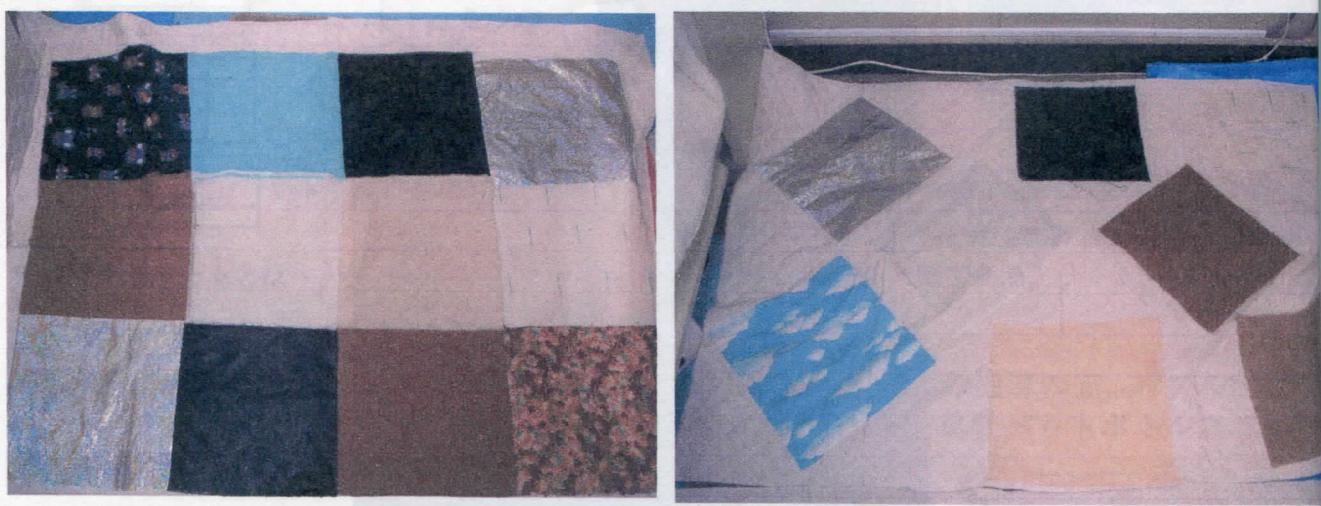
<材料>

布（木綿、コーディロイ、ボア、タオルなど）

<作り方>

それぞれの感触の布を切っておく。それらを土台となるマットに縫い合わせていく。

<完成図>



☆嗅覚ペットボトル立て

<目的>

五感でもある臭覚を刺激する。

<材料>

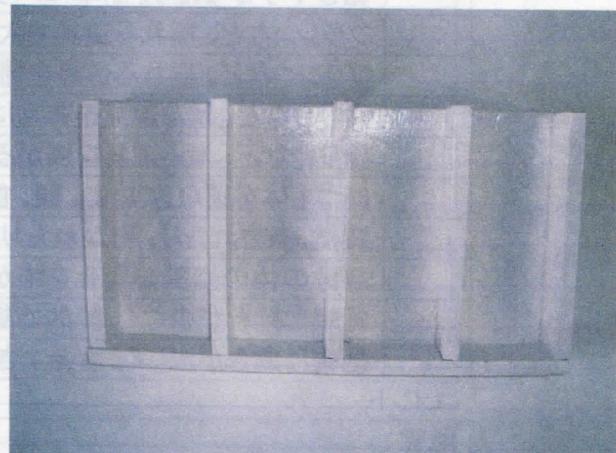
ペットボトル、木、釘、白ペンキ

<作り方>

ペットボトルの大きさを測り、4本置ける底板と仕切り板と角度をつけるための板を切りだす。

全て釘で固定する。固定できたら、白く着色する。

<完成図>



☆つり下げ道具

<目的>

いろいろな感触の物をぶら下げ、触れるようにする。また、肢体不自由の利用者の目線のまま触れるように上下移動出来るような工夫をした。

<材料>

感触の物、洗濯干し、つるし糸、フック

<作り方>

洗濯干しの先端のつり下げ部分に、つるし糸をつけてつり下げる様にする。部屋に糸を渡させておき、そこにひっかける。壁に糸の長さを調整するためのフックを固定し、糸をかけておく。

<完成図>



*利用者を知る方法

スヌーズレンを行うにあたって、利用者の状況を知ることが大切だと思う。そこで、オリジナルのチェックシートを作り、利用者の特性を把握した。これは、A4サイズ5枚で約130項目あり内容としては、動きを感じる感覚・触覚・聴覚・視覚・嗅覚についてや、好きな遊びや嫌いな遊び等がある。

私たちはこのチェックシートを参考にしながら、個人に合った刺激を取り入れるようにした。

- 回答者は保護者である。

動きを感じる感覚(前庭感覚)

転びやすかったり、簡単にバランスを崩しやすい。
ブランコなど、揺れる道具で大きく揺らすのを好み、繰り返し何回も行う。
ブランコなど、揺れる道具を怖がる。
滑り台など、滑る道具を非常に好み、繰り返し何回も行う。
滑り台など、滑る道具を怖がる。
いつも体を硬くしていて、頭、首、肩などの動きが硬い。
突然、押されたり、引かれたりすることを嫌がる。
自分の体の姿勢の変化を怖がる(仰向けにさせられる、逆さにぶら下がる等)
極端に動きが少なく、静的であることがある。
極端に動きが激しく、活発すぎることがある。

コメント

触覚

体に触られることに非常に敏感である。
くすぐられることが非常に好きで、何度も何度もせがむ。
くすぐられても、平気な顔をしている。
力強く抱きしめられることをよく要求する。
抱かれたり、手を握られたりすることを嫌う。
手で何でも触ってまわる。
特定の感触の物(毛布、タオル、ぬいぐるみ等)に執着して離そうとせず、何か持っていないと落ち着かない。
特定の感触の物(タオル、毛布等)を嫌がる。
風に吹かれたり、息を吹きかけられたりすることを嫌がる。

コメント

視覚

いろいろな物が見えると、気が散りやすくなる。
カメラのフラッシュなど強い光を極端に嫌がる。
光の点滅や、イルミネーション、輝く物等をじっと見つめたりする。
暗いところ(押入の中など)で遊ぶことが好きである。
暗いところが苦手である。
色や形にこだわる。
色や形などの識別が困難である。
物を置く位置、場所にこだわる。
動いているものを目で追うことが難しい。
細い線のすき間から、わざと物を見る癖がある。

コメント

聴覚

	特定の音に非常に過敏な反応をする。例えば:
	突然、大きな音がすると怖がる。(風船の割れる音、ピストル、花火等)
	冷蔵庫、換気扇、掃除機などの音によって気が散りやすい。
	人混みや、うるさい場所を嫌う。
	人の話に注意を向けない。
	呼びかけても、振り向かないことがある。
	テレビの音などを大きな音で聞く傾向がある。
	とても好きな音がある。例えば:
	とても嫌いな音がある。例えば:

コメント

嗅覚

	臭いに対して非常に敏感である。
	臭いに対して非常に鈍感で、無視しているように見える。
	何でも臭いをかいで確かめる癖がある。
	ある種の臭いを特に嫌う。 例えば:
	刺激の強い臭いが好きである。 例えば:

コメント

その他

	寝付きが悪い等、睡眠のリズムが不規則である。
	眠りが浅く、わずかな音ですぐに起きる。
	新しい場面になかなかはじめない。
	落ち着きがなく、注意集中が出来ない。
	好きな音楽は何ですか:
	好きなテレビ番組は何ですか:
	保護者の好きな音楽は何ですか:
	保護者の好きな香りは何ですか:

※回答記入方法※

- | | |
|--------------------------|---|
| 0 | : まったくない |
| 1 | : ごくたまにある |
| 2 | : 時ある |
| 3 | : 頻繁にある |
| 4 | : いつもある |
| <input type="checkbox"/> | : 質問項目にあてはまらない
(例えば、項目内容が、お子さんの状態に合わない等) |
| ? | : 分からない
(例えば、項目内容をこれまで経験したことがない等) |

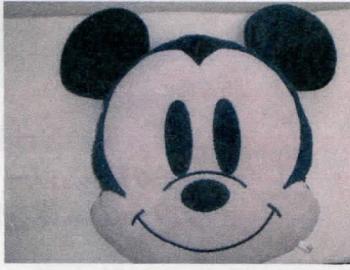


*物品購入

方法

利用者の五感を適度に刺激するような器具を購入した。

	商品名	内容
視覚刺激	サイドグロー(100 cm × 100 本)	 <p>ナイロンのようなヒモ(クロスファイバー)の中を、光がゆっくりと移動しながら三色変化していく。光の束は、床やベッドの上に無造作に置かれ、使用されている。</p>
	ミラー ボール	 <p>ミラーボールを吊して、それにスポットライトを当てる。部屋全体に無数の模様が広がる。スポットライトの色は自動的に三色(赤・青・黄)に変化するようになっていて、その光は非常にゆっくりと部屋全体を回転している。</p>
	ソーラープロジェクター	 <p>大きなライティングスポットが丸く大きく壁いっぱいに写る。それに液体の入った円盤を取り付けると、液体の動きによって幾何学模様が壁面いっぱいに広がる。抽象的な模様が目に飛び込んでくるようになっており、視覚をぞんぶんに刺激する。</p>
視覚刺激 触覚刺激	バブルユニット	 <p>人間の背丈もあるような透明の筒の中を水泡がブクブクと上がり、光がゆっくりと移動しながら四色(赤・青・黄・透明)変化していく。また、触れることで振動や冷たい感触を楽しむことができる。</p>
	二面鏡	 <p>バブルユニットを設置した壁の角に、2枚鏡をはることで、奥行きがでてバブルユニットが2本にも関わらず反射してたくさん見える効果がある。また、自分の顔も写り不思議な面白さが楽しめる。</p>
視覚刺激 感覚刺激 聴覚刺激	ミニドーム	 <p>ドーム部分、黄色いプレートの部分のどこを押してもドーム内のホイルがきらきらと回り、音楽が鳴り、振動する。</p>

視覚刺激	ミュージカルチェーンスイッチ		チェーンの動きでスイッチが入る仕組みになっているので、チェーンをさわっている間、音楽が鳴り続ける。スイッチとしても使用でき、市販の乾電池使用製品(おもちゃ等)にコード(別売)をつけそれを本品に差し込んでチェーンを動かすとおもちゃ等が作動する。
感触刺激	いも虫クッション		タオル生地の中にビーズがはいっており柔らかい感触が感じられる。またシッポ部分にスイッチがあり、ONすれば振動する仕組みになっている。
	ミッキー座布団		ミッキーの鼻の部分を押すと振動する仕組みになっている。
聴覚刺激	α波CD		α波が流れている環境の中では、リラクゼーション効果があると言われています。α波のゆったりとした音楽を聞きながら、ほっとするような安心感と心地よい時間を過ごします。
嗅覚刺激	お香・エッセンシャルオイル		玄関や階段等には、お香やオイルをたき、良い匂いを感じながら、スヌーズレンが始まるよということを知らせます。

文献：「スウェーデンのスヌーズレン」 河本佳子 より

「スヌーズレン器具 カタログ」 コス・インターナショナル より

*環境や器具等の注意点

※注意点①<コードはまとめる>

コードはまとめて一箇所で操作ができるようによること。また、できればスイッチは部屋の入り口付近に有り、利用者も操作できるようによることが望ましい。



※注意点②<触って壊れる物は固定するか隠す>

利用者が触って困る物、壊れやすい物は見えないところに隠したり、手の届かない所に固定することが必要である。



ミラーボールに使用する
スポットライトを壁に固定



ベッドの下にソーラープロジェクターの本体を隠している

※注意点③<利用者目線で見える配置>

利用者の目線に合わせた配置をすることが大切である。現在の利用者は肢体不自由児が多く、マットの上に横になつたりしてどうしても目線が低い位置になつてしまふ。そこでベッドの側面に鏡をつけることで、顔が写つたりサイドグロウの光が写るのを見たりすることが出来るようになった。



※注意点④<部屋の広さに合ったグッズを揃える>

グッズはただ買うのではなく、その部屋の広さに合った物を選ぶことが大切である。当法人は部屋が6畳と狭いためサイドグロウは100センチ×200本ではなく100センチ×10本の本数が少なくて充分だということ、ミラーボールは回転させず、スポットライトを当てるだけにしている。

*歴史

平成13度…4月2日にウッドムーン主催の河本先生講演の、テーマ「みんな違つてみんないい！スウェーデンのハビリテーションの現状」、この中で始めてスヌーズレンに触れる。この後毎年河本先生の帰郷の折に何らかの形でスヌーズレンの講演を聴くことになる。

平成15年度…広島養護学校で行われた勉強会に参加する。

この会に参加して、広島スヌーズレン協会があるということを知り、この勉強会に参加するようになる。

(広島スヌーズレン協会とは、太田篤志先生を中心に集まり、それぞれの施設でのスヌーズレンの取り組みについて報告しあい、情報交換されていた。)

この1年間でスヌーズレンの基本的な知識を得る事ができた。

平成16年度…山口市から補助金を頂きスヌーズレンくらぶをスタートする。

第2・4土曜に実施。

一人60分の内50分実施で、10分間は保護者へのフィードバックを行っている。

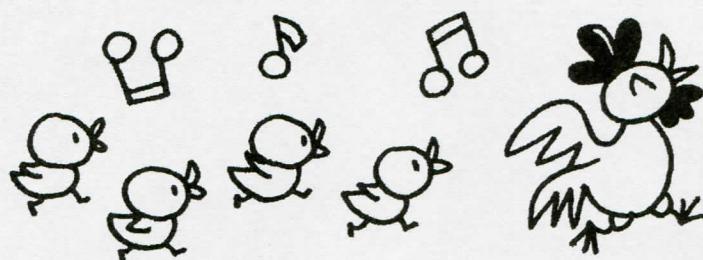
利用料金は1回350円。

平成17年度…「日本福祉文化学会のスヌーズレン部会」を受け持ち、太田篤志先生をお招きし貴重講演と当法人の事例発表を行い、16年・17年とやってきた事振り返る。

平成18年度…独立行政法人福祉医療機構から助成金を頂く。

河本先生長期帰郷の元、定期的な勉強会を5回行った。内容は、スヌーズレンの意義、事例発表、体験、スヌーズレンの導入に際して、総まとめである。

福岡県で行われた勉強会に参加した。



新規事業本部へお詫びと申す言葉を本部の新主へ。A社やB社など…同じ工場で、工事中の工事と並行して、工事の安全を守るために「警報」装置を設置する際は、各部門の協力で、工事の障害物を防ぐための警報装置を設けよう。

（参考）参考二>新規事業の工事現場における警報装置



完成したホワイトルーム

新規事業本部へお詫びと申す言葉を本部の新主へ。A社やB社など…同じ工場で、工事中の工事と並行して、工事の安全を守るために「警報」装置を設置する際は、各部門の協力で、工事の障害物を防ぐための警報装置を設けよう。